

大館市総合教育会議 会 議 録

令和3年12月開催

令和3年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和3年12月17日 金曜日

開会 15時30分 閉会 16時50分

2 会 場 市役所本庁舎 会議室101、102

3 出席委員

市長	福原 淳 嗣
教育長	高橋 善 之
委員	山田 和 人
委員	根田 穂美子
委員	工藤 啓 子
委員	小笠原 正 卓

4 事務局

教育次長	石田 一 雄
教育監	山本 多鶴子
教育総務課長	成田 浩 司
教育総務課長補佐	宮崎 史 人
学校教育課長	小松原 功 秀
学校教育課主幹	野呂 謙 一
学校教育課長補佐	鈴木 明
教育研究所長	米澤 貴 子
生涯学習課長	一関 留美子
生涯学習課長補佐	糸屋 みさえ
中央公民館長	金谷 浩
歴史文化課長	小松 工
歴史文化課長補佐	加賀 至

5 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

6 会議内容

○石田教育次長

ただいまから、令和3年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議構成員の皆様の出席状況は、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取り扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はありませんが、報道関係者が2社いらっしゃいます。

本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、会議を公開とし、傍聴を許可したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、当会議の招集者であります福原市長がごあいさつを申し上げます。

○福原市長

令和3年度第1回大館市総合教育会議にご出席くださいますと誠にありがとうございます。

政治行政の要は、人を育てるということに尽きます。そうした意味において感染症の世界的な流行、パンデミックが私たちに突き付けたのは、教育の本質はなんですかと、この一言に尽きると考えております。その意味で「ふるさとキャリア教育」は、正に本質をつかんでいるからこそ、国内外に高く評価されているのだと思います。

今日は限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を賜りまして、有意義な会議にしたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

○石田教育次長

ありがとうございました。

これより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱の規定により市長が議長と定められていることから、福原市長にお願いいたします。

○福原市長

それでは進めます。

次第に従いまして、高橋教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○高橋教育長

教育委員会制度改革が6年前にありまして、教育長の任期が変わったり、教育長の任命制度は首長が任命するということになったり、本総合教育会議もこの制度改革で初めて出来た会議でございます。

それまで市長部局と教育委員会は、それぞれに施策を展開していたのですが、実効性の高い教育施策を一体となつてできるようにという願いを込めての趣旨であるということと理解しております。

制度の趣旨は非常に良いのですが、実は、下手をすると大変なこともあるのです。関西地方の話ですが、首長がコロナ禍においての授業はリモート、オンラインでやれと。けれども、それだけではできないので教育委員会の指示で、1、2時間目は家でオンライン、3、4時間目は子どもたちを出校させ、給食は対面とし、5、6時間目は家に帰してリモートでやった学校があったのですが、子どもたちも大変だし、先生たちもすごく大変で疲弊してしまったと。

このことについて、ある校長が実態を訴えたら懲戒処分を受けたというニュースがありました。これはこの制度を非常に悪く使っている例でありまして、大館市のように市長が目指すベクトルと教育が目指すベクトルが全く一致しているという例は全国でも稀有なケースだと思います。

そういう意味でも非常にありがたく思っておりますし、今日の会議を通して未来のベクトルについて、市長へもご理解いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○福原市長

ありがとうございました。

次、第4の協議事項に入る前に、事務局から発言を求められておりますので、発言を許可します。石田教育次長どうぞ。

○石田教育次長

議事進行は議長である市長が行うこととされておりますが、市長、教育長、教育委員の皆様と十分に議論していただくため、昨年同様今回も事務局が進行しまして、皆様に協議をしていただきたいと思いますと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○福原市長

異議なしとのことでございますので、進行は事務局にお願いいたします。

○石田教育次長

それでは、「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」順次ご説明を申し上げます。なお、テーマは1件ごとに協議をしていただきながら進めてまいりたいと考えておりますので自由なご意見をお願いいたします。

はじめに、高橋教育長から「「教育のイーハトーブ大館」協働ビジョン」について説明をお願いします。

(「「教育のイーハトーブ大館」協働ビジョン」について、高橋教育長が説明)

○石田教育次長

ありがとうございました。

ただいまのテーマについて、協議をお願いしたいと思います。ご発言のある方は挙手をお願いします。

○福原市長

手前みそですが、これは教育委員会を核に庁内を横断しているのです。多分こういう自治体はないです。本当にすごいと思います。

○石田教育次長

先ほど高橋教育長から庁内の横串の話をされました。大館市はだんだんよい流れになってきており、私たち職員も認識を強くしたところです。

○福原市長

情報提供ですが、先導的共生社会ホストタウンは全国で15自治体しかありません。ここを得られたところはどのようになってくるのかということ、経団連の別名称だった東京オリンピック・パラリンピック組織委員会は来年3月で解散となりますが、名称を変えて経団連としてしっかり継続した組織を作り、会員企業と認定いただいた街、例えば、大館市と政府と三位連携をしていろいろ政策を進めていこうということで、「大館生涯学習100年プラン」の「障がい者のための生涯学習」という項目をしっかりと作ってくれている。

ここが、いろんな意味で新しいつながりができてきます。例えば、ある企業が子どものつどいの広場の中におしめを変えられる場所やおしめを無償で提供するとか。このような流れがどんどん加速していくことが想定されています。

「エコタウン大館」は、上場企業ほどSDGs的な考え方を大館市が理解しているか、していないかということを直接市長が問われる場面が増えていて、子どもの頃から意識を醸成するにはすごくいいだろうと。

将来的には渋谷区の二酸化炭素は大館市の植林でサポートするということになりますので、渋谷区の子育て施設ネウボラの中に大館市の杉が使われるという流れになります。この2つを広げていくことでどんどん外に友達が増えていく大館ができるということです。

あと、先導的共生社会ホストタウンのことで、来年度に東北大学の政策公共大学院の教授がワークショップを1年かけて大館市でやりたいそうです。これは政府が後ろで動いている。脚光を浴びる良い機会となります。

○高橋教育長

先ほど言い忘れましたが、教育ツーリズムの中で渋谷との関わりで来年2月にウィンター・スクールを実施する予定です。渋谷区の児童19人がアメッコ市や雪遊び体験、雪の結晶を見たりします。渋谷区の教育委員会が動いてくれて、学校でも情報を流してくれたらしく、あっという間に定員になったようです。そこも連携が大切だと感じました。

○福原市長

歴まち大館の活動で矢立峠と羽州街道がありますが、今、山口県萩市と「吉田松陰東北遊学ネットワーク」というのを弘前市、平川市、大館市で作り交流しようという流れになっています。

「曲田聖堂ガイド」は今、函館ハリストス正教会を改修していますが、ハリストス正教会つながりで函館市と大館市で物語を作ろうとしており、するとどうなるかというとお茶の水正教会ニコライ大聖堂につながってくる。

○山田委員

なぜ、このような横の連携ができるのかと常々考えていました。なぜかといえば、大館市は物語があるからです。ストーリー性があるところに他の街の方々が興味を引くのです。物語が街に何もないと誰も興味を引かない。それをどうやって引き出すかということを市長が一生懸命、粉骨砕身ご尽力されていて、それをどういう形で全体に結び付けて産業を活性化させていくか、そのコアに大館の教育があるわけです。

そこを見据えていただいたうえで教育にも力を入れて下さっていることが、このような結果を生むのかなという気がしますので、ぜひ、物語、ストーリー性を一層大事にしていきたい。

新しいストーリーをこれから展開するという気概も十分感じさせていただいておりますので、私たちも出来ることをやっていければいいなと思っています。益々のご指導ご鞭撻を逆にお願ひしたいと思います。

○工藤委員

一年ぶりに市長のお話を伺って熱意を感じ、各課の皆さんが本当に動いてくださっているのだなと改めて思いました。

それから教育長のお話の中でビジョンを聞いて子どもを育てるとか、人を育てるということが、学校教育で完結しないというか、その後も大切なのだと考えています。

ビジョンにある「大館生涯学習100年プラン」の中の新しい2つの取り組みについては、大いに期待しています。おそらくここに書いてあることは、これまで学校教育とかけ離れたところで進んでいたと思うのですが、もしかしたら将来の社会を変えるのは、大人を変えるより、子どもを変えて意識を醸成する方が実は手っ取り早いのかなと思いました。

例えば、エコタウンのことに關しても、世界と比べるとまだまだ意識が低いと思うので、子どもの頃から教育と連携したほうが、大いに成果が上がるのかなと思います。

今、お話があったように教育だけでなく、横のつながりを大事にしていかなければと思いました。

○小笠原委員

子を持つ親としてここに座っておりますが、本当にこのビジョン一つひとつが子ど

もたちにとって、それぞれの子どもたちに降りかかってきて、彼、彼女らは本当に幸せだなと感じております。それも本当に教育は狭義の教育で出来るものではなくて、皆さまが将来の大館を想ってやったださることに保護者の1人として心から感謝を申し上げます。

その中でもいろいろ子どもたちが感じる事、そこで将来のビジョンが変わったり、見いだしたり、いろいろ出てくると思いますので、そういうところを助けていただきたいと思っています。

○根田委員

この協働ビジョンを拝見して、びっくりいたしました。庁内の横断というか、あまり気が付きませんでした。これを見て初めていろんな課と連携ができて教育が成り立っているということを改めて実感いたしました。

今日の新聞の一面に子どもたちの「こでん回収」のことが載っていました。今の子どもたちはSDGsそのもの自体を心と体で感じながら、自分たちの未来を見据えて未来に向かって歩いていく。これもまた、教育の在り方、大館の教育がいかに子どもたちのために成長させているかということが、ここ10年間で目に見えて子どもたちが変わったと私は思っています。

10年ほど前は子どもたちの動きがよく分りませんでした。教育長さんはバイタリティーのある方ですので後ろについていきながらいろんなことを見させていただいて、将来、夢を持つことができる。私たちも夢を見ることができる。この2つを加味して大館市の未来を見ることができる。そういう思いでいっぱいです。

○石田教育次長

4人の委員の方々のご意見をいただきました。市長から何かありますか。

○福原市長

委員の皆様がおっしゃるとおり、しっかりこれをやりましょう。

ひとつ問題提起ですが、大学入学試験にITが入ってきます。メディアは取り上げないのですが、インターネットの世界では思考がイングリッシュなのです。つまり、英語で考えている人たちの問題の解き方、アルゴリズムですが、思考の段取りをマスターしましょうというのが最初に出てきます。その下にそれぞれの学問が出てくるので、ここを大館市はしっかり意識してできています。

どちらかというと日本人は端末の性能ばかり追う。でも、結局ガーフア(GAFA)もできなかった。思考が違うのです。端末の性能がよくても仕組みがなければ単なる道具でしかない。そういう捉え方を多分ITが問題として問われる。

今のような思考の段取りは、大館市のふるさとキャリア教育がしっかりと考えられていますので、ご安心いただきたいと思います。

○石田教育次長

ありがとうございました。

では、次のテーマに移ります。4つのテーマがございしますが、一括で説明させていただいた後に各委員からご意見を伺いたいと思います。それでは、最初の「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」から説明をお願いいたします。

（「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、1から3まで成田教育総務課長が説明）

（「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、1から3まで小松原学校教育課長が説明）

（「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」について、1から3まで一関生涯学習課長が説明、4は金谷中央公民館長が説明）

（「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、1から3まで小松歴史文化課長が説明）

○石田教育次長

ありがとうございました。

以上、4つのテーマについて説明いただきました。これにつきましてご意見のある方は質問をお願いいたします。

では、山田委員お願いいたします。

○山田委員

この中で気付いたことがあるのですが、「地域の宝を発見し」と、最後に締めてくださったのですが、実はたくさんあるのです。

大館というところはありすぎるくらいたくさんある。問題はどうかつなげていくか、どうやってストーリーを持っていくか、それを教育委員会の力で大事に支えていただきながら、構想力と面で支えるハードウェア、例えば、商工会議所でやっている街に標柱を立てW i F i でつなぐと説明が出てくるとか。

羽州街道が通っているので、標柱にかざしたら「次はここだよ」、「このルートはそうなんだよ」と分かるくらいの歴史の流れというものを街に増やしていただいで、観光客や子どもたちがそこから歴史を学ぶようなスタイルをこれから作り上げていく必要があると思います。

僕らはますますそういうことに力を注いでいって、誇りを持てる街なのだとということ意識付けしていって、子どもたちにこの大館への関心を高めていって、いずれここに帰ってくるところとして持っていかれたらと思います。

ぜひ、そのような足掛かりになるようこれから視野を広げて考えていく必要があるだろうと思いました。行政の財産は、こういう形でつながっていかなければならない。

○石田教育次長

今の標柱は、ＱＲコードの物で歴まち事業でだいぶ増えてきました。年々増やしていております。

○山田委員

その中にストーリーがあった方がよいですね。ただの説明だけではなく、どういうつながりがあるのか、大館とどういう関係があるのか見えるといいのかなと思います。

○石田教育次長

ありがとうございました。

では、工藤委員お願いいたします。

○工藤委員

今のお話と関連があるかも知れませんが、ふるさとキャリア教育が始まった最初の狙いとして、自分たちのふるさとの良さを知ることからいろんな活動が始まったと思うのですが、その伝統文化に関してもいろいろと学ぶ機会がたくさんあったと思います。

今回提案されている発表の場、これは本当に胸を張って自分たちのふるさとの良さを誇れる、発表できる場ということで、きりたんぼまつりがあった頃はステージで何度か出ていた場もあったと思いますが、この事業が終ってもその場を設定していくということでご協力いただきたいと思います。

ＩＣＴの活用ということで、子どもたちはどんどん使いますね。使いこなしていている。それをどうまとめていくかという教師の力が求められていることで研修の場もあるようなので使うことが目的でなく、どう効果的に使っていくかという授業の質を高めるため、研究所を中心に充実させていってほしいと思います。

かなりの金額が掛かった、せつかくの物なので効果的な活用を期待したいと思っています。

○石田教育次長

ありがとうございました。

では、小笠原委員お願いいたします。

○小笠原委員

私からは、主に学校環境のハードウェアとか、それに関わる人的な話をしたいと思います。

おかげさまで今年度エアコンが学校につきまして、夏に間に合っただけで子どもたちは非常に快適な学びの場を提供していただいたことに感謝申し上げます。

さらに、トイレの洋式化、良いか悪いかの議論は別にして、今の子どもたちは洋式で育ってきているなかで、学校で和式ができない子どもがたくさんいるようです。休み時間になるとトイレができない子どもに掛かり切りになってしまい先生方の休みがなくなる。本当に時間がもったいないというか、そういうところのハードの問題を整えていただくと先生方も次の授業の準備に入れるし、そういうところで教育の充実というものも図れるのではないかと思います。

さらに、支援員の方々を維持してくださることは、先生方の負担軽減にも非常にありがたいことです。

引き続き、財政面でも学びとしての特にハードを整えることによって先生方が快適に、そして、より教育に打ち込めるようになると、大館は鬼に金棒だと思います。ご配慮いただければ大変ありがたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○石田教育次長

ありがとうございました。

では、根田委員お願いいたします。

○根田委員

「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」という、この大館学び大学が何年か前から準備をしておりましたが、ようやくグランドオープンに近付いて、先日はプレオープンされ、本当にグランドオープンしたことに关してはリカレント教育事業社会人の学びの場になりますし、働き方改革にも大いにつながっていくと思います。

また、大館市が1つの小さな国として自立できるような思いを大館学び大学に見ることもできるのではないかと心の中で思っています。

私たちが生涯にわたって、子どもたちから継続して途切れることなく勉強できる、学べるということに対する大館市の取り組みに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

それから、それぞれが良い取り組みでよろしいのですが、伝統文化親子教室事業について、これは本当に大事な、一時、ビヨンド・レガシーという言葉がはやりましたが、歴史を守っていく、その文化を保存し守っていく、それを子どもたちにつなげていく、大人であるべき私たち一人ひとりの人材を発掘する、そのこともだいぶできてきているように思います。

その一人ひとりの人材を子どもたちにつなげていってもらいたい。ここ5、6年位でだいぶ発掘できてきているような気持ちいたします。

それこそ大館教育は一人ひとりの市民の皆様が先生ですので、それぞれが得意とするものを持ち合わせている。それを発掘しながら、子どもたちにぜひ伝えていってほ

しい。そのことは悠久の文化を守る匠の存在を発掘しながら後世に伝えながら大館市を永久に継続して。

あと25、6年すると大館市というところも無くなるかも知れないと話される方がいるのですが、私はないと思っています。

今の子どもたちはキャリア教育によって、育てられ鍛えられ、少し体力的な面が欠けるかもしれませんが知性であるとか、創造性であるとか、たっぷりと豊かな精神が作り上げられてきていると思っています。

いまちょうど、大学卒業する頃でしょうか。最初のキャリア教育ですが、その方々が全員戻ると思いませんが、大館を愛する子どもたちが成長しておりますので、必ずや戻って来る子どもたちもたくさんいらっしゃると思います。

その子どもたちにつながって大館市を守ってほしいと、こういう文化の面を見ると切に思わずにはられません。一人ひとりお礼を申し上げながらよろしくお願い申し上げます。

○石田教育次長

ありがとうございました。

いろいろなお話が出ましたが、市長からお願いします。

○福原市長

高橋教育長の「大館盆地を一つの学び舎に、市民一人ひとりが先生に」というのが、ふるさとキャリア教育をあらゆる世代の学びたい意欲に応えるというのが原点になります。

私自身、実現に相当時間が掛かるのだらうと正直思っていました。最終的には私の先輩にお願いしようと簡単に考えていたのですが、教育委員会の皆さんはしっかり考えてくれていました。

プレオープンのとくに話をさせてもらったのですが、福沢諭吉先生は「人間は2つで成長する」と。1つは本（学問）で成長する。もう1つは人との交流だと。この2つを未来永劫持ち続けている限り、大館は絶対学びのふるさとになるでしょうし、そこが一番忘れてはいけないところなのだろうと思っています。

これがベースにあることと、工藤委員と山田委員の話につながってくるのですが、（ICT活用は）単なる道具で、これが知識比べにさせてはいけないのです。

もっとはっきり言うと教育の話は教員です。この（ICTの）ノウハウを持っている人はいないです。ただ、世界に通用する思考というのがあって、そのためにはちゃんと慣れるということが大切なだけで、これが表に出てくことは教育ではないと思っています。自分たちの街や歴史に対する理解がベースにあれば、思い切り構えていられる。それが無いと皆今回のようにメンタルが潰れる。

東北大学の教授に表敬訪問したときに面白いことをおっしゃっていました。今回のパンデミックでメンタルが駄目になったのは、会社依存の男性だそうです。つまり、

組織の一員だからこそできたことが、組織が無くなった瞬間に「自分はどうすればいいのか」となったそうです。女性は無いらしいです。そういうところをちゃんと踏まえて市の教育委員会が動いているので嬉しいです。

○石田教育次長

ありがとうございました。
教育長は何かありませんか。

○高橋教育長

先ほど体力の話がありましたが、秋田県の子どもたちは体も大きいし、スポーツテストも全国トップレベルです。

○根田委員

分かりました。

○高橋教育長

やはり、I C Tが新しい要素として入ってきているわけですが、市長のおっしゃるとおり I C Tのために教育がある訳ではなく、教育の実効性を高めるためにツールとして使いこなしていくという、そこは揺るぎなく大館市は進めていきたいと思っています。

風潮といいますか、I C Tさえ使えば革命的なことができるみたいな。いろんな技術分野ではあっても教育ではありえないですから。教育は人間を育てる仕事、未来を作る仕事ですので、ぶれないで進めたいと思います。

○福原市長

今の教育長の話を知り、つなげて共有できればいいです。というのも、今、半導体は産業の米と言われていて着目されております。

半導体には2つあるのですが、1つは考える半導体、もう1つは記憶する半導体。日本人が強かったのは記憶する半導体なのですが、欧米型の考える半導体がいち早く進んでいき、アルゴリズム、ひらめき、コミュニケーションなどつなげて分業からネットワーク型になった。

ところが、日本の半導体は相変わらず「記憶する」「メモリーを増やす」「工場で作る」「全部うちがやる」と単独でどんどんやっていったのでガラパゴス化が進み、考える半導体に追い付けなくなった。

考える半導体が優秀だった東芝製を、東芝が粉飾決算のときに政府は助けないで、それをやる気のある台湾の会社に行っただけの話。本質が分っていれば。この話はメディアに出ない。

○山田委員

アルゴリズム。大切な言葉だと思うのです。実は日本人はすごく苦手で、感性は豊かなのですが、現代の世界ではついていけないのです。でも、だからこそ逆に大館型の教育というのは豊かな感性が鍛えられる。

何が原因かということと子どもたちが話し合って、学び合って、認め合うから。この環境があるから、そういうことが重要なのだと自分で自分のことを分ってきている。

実はそれが自分のことを自分で考えて分析することが、ある意味アルゴリズムなのです。そういうことを鍛えられているので、もう少しスイッチを入れてやると、また違った教育ができてくると思います。

ロボットの研究をしていますよね。プログラミングをやっていますよね。これと大館の教育が合わされば、また違ったものができてくると思うのです。感性が無いと理屈、理論などがもったいびつなものになってくるはず。そこはしっかり支えてくださっている。

○福原市長

いずれグランピングになってくると、スノーピークから学ぶことがすごく大きいので、ぜひ教育の場面でも取り入れてほしいと思います。

○山田委員

グランピングの事を教えてください。

○福原市長

グランピングとは、ホテルに行くような感覚で一番素敵でそれぞれの地方の自然を楽しむというところに重きが置かれています。

例えば、夫婦1泊で8万8千円くらいになります。いろんな体験もするのですが、供される食事は地元の産物。しかも、地元の料理人が作る。モニタリングツアーをしたときにフランス料理を作る人がいて、地元野菜を持ってきて、料理も美味しくて新しい喜びがありました。

私たちからすると五色湖は端という感覚ですが、スノーピークからするとあの場所から2時間圏内に10万人から30万人都市が5つもある。しかも、五色湖の橋が、これから非日常の空間が始まりますというゲートウェーの役割を果たす。こんなに素晴らしいところは無いというのがスノーピーク的な捉え方です。

スノーピークは私も使っていて値段も高いのですが、一生保証なのです。自分たちが作ったものは絶対直します。そういう考え方も素晴らしいですね。

高品質に時間を過ごしてもらうことに価値を見出すという人たちはこのサービスが欲しくて来る。立派な建物で何人も入ってもらうというのは血の海「レッドオーシャン戦略」ですが、グランピングは完全に「ブルーオーシャン戦略」です。

差別化をどうするのかと聞かれるが、差別化はしません。そこにあることが五色

湖しか体験できないものだから。それをうまく実現された後、比内地域で展開したい。

また、住む箱と書いて「じゅうばこ」と表現するのですが、あれはトレーラーハウスなので不動産でなく動産なのです。そういう使い方もできるのだろうと。ふるさとキャリア教育のために考えたようなものです。

もう1つ、観光フォーラムでも話しましたが、日本国内で白神山地と縄文遺跡、世界自然遺産、文化財が重なっているのはここだけなのです。それを実現するために国立公園、国定公園、県立自然公園を一体的につなげて発信するストーリーテラーに大館市になって下さいというのが位置付けで、秋田犬を縄文犬の子孫ということで、どんどんネットワークができていきます。

○高橋教育長

スノーピークさんの発想の話を聞いて思ったのは、1つの塊としての100万人都市はないけれど、秋田市、弘前市、青森市、八戸市、盛岡市と全部合わせれば100万人、しかも距離的、時間的にも大館市が真ん中に位置しているすごさというか。これは将来的に北東北の中核都市大館を目指すという、まさにピッタリの発想だと思います。

いずれはグランピングだけではなく、いろんなものに応用できるのかなと感じます。

○福原市長

今の話は、人の流れや物の流れが大館に集まろうとしていて、北東北3県は明治維新以降所管が函館税関なので、この間のインランドデポ税関の手続きを大館駅ですると、輸出品が道南から北東北全部が大館駅に集まる。

将来、人と物が大館に集まってくるとき、子どもたちがインランドデポについて、なぜ、港がない大館に集まるのだろうとか。東京で使われなくなったパソコンの基盤をJR貨物が、毎日東京から大館駅まで持ってきて花岡でレアメタルを作っていた。復路が空荷物だったので、それを輸出に載せたらどうだろうということから始まった。

東京都港湾局は、この話を聞いた瞬間に環境リサイクルでつながっていることや渋谷と忠犬ハチ公でつながっていることで、うち（東京都港湾局）が入りますと。

SDGs的な考え方と環境に配慮した輸出構造の構築の両方に合致するのであれば港湾局の予算で宣伝すると言っていた。これは、子どもたちの学びの材料に最高ですよ。京浜のターミナルに将来、子どもたちが修学旅行で行けるようになったらなおさらすごいと思います。

○高橋教育長

令和5年度から、それを検討に取り上げていきたいと思います。

○福原市長

ぜひお願いします。

あと、三菱重工業さんは、大館市の子どもたちを大歓迎すると言っています。東京は誰でも行くのですが、名古屋はすてきです。何だかんだいっても物づくりは中京です。

○山田委員

話しは変わりますが、大館の人の見方を変えると北秋田市、鹿角市、大館市、能代市は1, 000メートル級の山が一つずつあるのです。

そういうことを子どもたちは良く知らない。少し足を延ばすと1, 600から1, 700メートルの山がゴロゴロあります。山があって登って地域を見渡す。俯瞰するといろんなものが見えてくるのです。とにかく物を違った角度から見る。そうすると市長がおっしゃったようなものも見えてくる。

○福原市長

今のお話を観光フォーラムでも話された方がいました。森林限界線というか、それがこの辺は凄く低いので魅力的なのだそうです。

○石田教育次長

時間が少なくなってきましたので、この辺でご意見は終わらせていただき、協議を終了させていただきたいと思います。

では、議事進行を議長に戻します。議長よろしく願いいたします。

○福原市長

今、教育委員の皆様が話されたことは十二分に分かったうえで進めていただいているのは良く分かりました。しっかりと協力して頑張っていきましょう。私からは以上です。

その他に移ります。事務局から何かありませんか。

(ありません)

○福原市長

では、これで全て終了ということで議長の職を解かせていただきます。

円滑なご審議にご協力いただきましてありがとうございました。

○石田教育次長

今日の会議で協議された内容、意見、提案につきましては、精査したうえで今後の施策を実行してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして令和3年度第1回大館市総合教育会議を閉会いたします。

本日は、大変ありがとうございました。